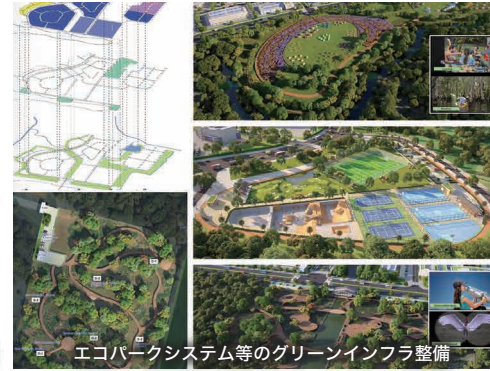




エコインダストリアルタウンのイメージ



対象地の現況と環境問題



エコパークシステム等のグリーンインフラ整備



エネルギーステーション併設型の道の駅



サーキュラーエコノミーのハブづくりのコア施設



工業団地従事者等のためのエコ住宅

### ＜ 現地政府資金調査 ＞

# バンコク郊外都市開発モデルの策定 ～時代ニーズに合致したエコインダストリアルタウン計画～

タイ  
エコタウン計画作成FS調査支援業務

コンサルティング：(株) エイト日本技術開発  
EJEC (Thailand) Co.,Ltd.

タイのバンコク首都圏（バンコク都と隣接5県を合わせたエリア）の人口は、2037年に約2,000万人に達すると見込まれている。増加人口の受け皿はバンコク郊外部の隣接5県である。

バンコク首都圏の海岸郊外部では、マングローブ林、干潟、河川などから構成される豊かで貴重な自然が残る。しかし、近年、無秩序なミニ開発の進展やごみの不法投棄などによる環境汚染が目立ち、非効率・不衛生な土地利用の問題が顕在化してきている。加えて、地球温暖化などの影響から集中豪雨による洪水が度々起きていることや、海面上昇からの海岸浸

食も重要な課題となっている。

本案件では現地の大学と共に、対象地域であるバンコク首都圏の海岸郊外部の社会・経済・環境などの特性を踏まえ、地域の課題に対処しつつ、タイの産業・エネルギー政策、時代のニーズに合致した“エコインダストリアルタウン”としての都市開発コンセプトを掲げて、都市開発方針・土地利用計画を策定した。

具体的には、地域課題の解決に向けて、長期的・広域的な視点に立脚して、次世代型サステナブル開発計画として、サーキュラーエコノミーのハブづくり、グリーンインフラやスマー

ト技術の防災・環境・エリアマネジメントへの活用、資源・エネルギーのリサイクル施設や廃棄物発電施設の導入、エコ工業団地、リサイクル材活用型エコパーク、エネルギーステーション併設型道の駅、工業団地従事者などのためのエコ住宅整備などからなる複合的な都市開発プランを作成した。

現地大学による適地選定、事業性の分析、環境影響調査の結果も踏まえた現地ステークホルダーへの説明の結果、本開発計画の推進に賛同が得られており、今後の実現が期待されている。

寄稿：(株) エイト日本技術開発 国際支社  
中世古篤之・大寺泰輔